

# 放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

## 回答率

事業所職員： 5名回答、回答率 100%  
保護者様： 20名回答、回答率 77%

## 職員の意見

### ○環境・体制整備

- ・勉強するスペースと遊びのスペースを区切って過ごすことができている。
- ・児童発達支援管理責任者と児童指導員2名以外に心理士資格保持者や保育士資格保持者を配置している。
- ・躓くことがないように玄関ドア前やトイレ前の段差にスロープが設置されている。

### ○業務改善

- ・職員は自己評価シートにて半年ごとの目標設定や業務の振り返りを行い、上長面談も定期的に行っている。
- ・ガイドラインや利用者アンケートを実施し、事業所の改善につなげている。毎年ニュースレターとホームページで結果の公表も行っている。
- ・役職別研修や勤務年数別研修、安全管理研修e-ラーニングを取り入れた研修など、法人における研修制度は充実している。また教室内で必要だと感じた際に教室研修を開き、教室全体で課題解決に向けての手立てを考えることができている。

### ○適切な支援の提供

- ・半年ごとの個別支援計画更新面談でアセスメントを取り、記録に残している。
- ・毎月の活動プログラムをスタッフで分担して立案を行っており、より良い集団療育を行い、毎月たてている療育目標を達成できるように教室全体で取り組んでいる。
- ・長期休暇には事前に保護者の方から取り組みたい課題をヒアリングして課題提供を行ったり、課外活動などの休日だからこそ実施できる活動も工夫して取り入れている。
- ・業務前ミーティングを開始する時間を始業時に確認し、平日は送迎に出る前、長期休暇は送迎後に翌日の打ち合わせを行っている。
- ・療育記録に支援計画の項目にそって取り組んだ結果を毎回記入している。

### ○関係機関や保護者との連携

- ・送迎時の聞き取りのほか、保護者から毎月のお便りを共有していただいている。
- ・送迎時や自宅訪問で情報共有を行っている。
- ・こども部会の定例会に出席している。

### ○保護者への説明責任等

- ・運営規定、支援の内容について契約時に説明を行い、変更や問い合わせがあった際は適宜対応を行っている。
- ・保護者会の開催を考えていたが今年は準備時間の確保が難しく、実施することができなかった。準備の計画をたてることで保護者会の実現をめざし、保護者同士の連携も支援していきたい。
- ・毎月ニュースレターをご自宅にお送りしたりお休みの日には事前にイベントご案内のお便り配布を行っている。また、ブログをアップし子どもの様子を伝えるツールとして定着するよう努めている。
- ・言葉で伝えるのみならず、書字やボディランゲージで伝えることが有効であることを保護者と確認し、実践することができている。

### ○非常時等の対応

- ・毎月災害を想定した避難訓練が行われている。
- ・虐待防止委員会を設置し定期的に研修を行っている。
- ・個別支援計画に記載し保護者の方にも説明を行っている。

# 保護者様のご意見

## ○環境・体制整備

- ・活動スペースについては、「もう少し広くてもいいかと思う」とのご意見をいただいた。
- ・事業所のバリアフリー化への配慮がなされているかについて7割の方に「はい」とお答えいただいた。

## ○適切な支援の提供

- ・個別支援計画においてはお答えいただいた全ての方に、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で作成されていると回答いただいた。
- ・活動プログラムが固定されないよう工夫されているかの質問には20名全ての方から「はい」との回答をいただき、満足度が高いことがうかがえた。
- ・障害のない子どもとの関りについては、「どちらとも言えない」との回答を一番多くいただいた。

## ○保護者への説明等

- ・保護者への説明については、「送迎の時にその日あった事や、学校での申し送り等、きちんと教えてくださいとも丁寧で助かる。『色々相談等、聞いてくださり助言もありありがたい』などのご意見をいただいた。
- ・保護者同士の連携の支援については、「最近ではコロナ等の影響もあり減っている」との声があった一方、「保護者同士の連携は特に必要がないと思う。」のご意見もあがっていた。

## ○非常時等の対応

- ・マニュアルの周知・説明がなされているかの質問には8割の方に「はい」とご回答いただき、非常災害時の発生に備えた訓練が行われているかの質問には9割の方に「はい」とお答えいただいた。

## ○満足度

- ・事業所の支援に満足しているかの質問には20名全ての方から「はい」との回答をいただき、「とても満足しています」とのご意見もいただいた。
- ・子どもが通所を楽しみにしているかの質問には8割の方に「はい」とお答えいただいた。しかし2割の方からは「どちらともいえない」との回答をいただいた為、お子様に通所を楽しみにしていただけるよう、療育活動の工夫やスタッフの支援力向上を図っていく。

# 昨年度の振り返り

## ○今年度の取り組む具体策

- ・教室内での研修の機会を増やすことでスキルアップを目指す。
- ・非常時の対応や送迎時のトラブルについてのマニュアルを全職員が理解し、対応できるように学ぶ機会を作る。
- ・教室内での児童の様子をお伝えし、保護者の方との信頼関係を築くことで児童理解を深めて支援の向上に努める。

## ○改善できた点・まだ残る課題

- ・階層別研修やe-ラーニング等全社研修に参加し、社員それぞれが特性理解や支援力の向上に努めることができた。
- ・安全管理マニュアルの読み合わせなどを行い、自教室における支援の振り返りや避難訓練の内容の見直しに繋げることができた。ヒヤリハット報告書を作成し、事例の共有や対策の検討をこれまで以上に取り組んでいきたい。
- ・毎月ブログの作成を行い、口頭だけではなく写真を載せることでより詳しく教室での様子をお伝えすることができた。

## アンケート結果からみる教室の強み・改善点

### ○教室の強み

- ・利用児童、保護者の方のニーズや課題に沿った個別支援計画のもと、支援を行うことが出来ている。
- ・スタッフ全員が児童一人ひとりの個性を理解したうえで、療育活動の立案を行っている為、療育活動を楽しみにご利用して下さる方が多くいる。
- ・保護者の方からのご相談やお悩み、児童の様子等、業務前ミーティング時に必ずスタッフ間で共有を行い、教室全員で考えて対応することができている。

### ○改善点

- ・活動スペースやバリアフリー化等、教室設備に関してご不安なく通所いただけるよう検討が必要。
- ・コロナ5類移行に伴って、保護者会の開催を予定していたが実施することが出来なかった。ジュニア教室となり、活動内容に就労支援が入っていたりプラス教室とは違う部分がある為保護者会を開催し、ジュニアについて知っていただく機会を作り、保護者同士の関りを増やしていきたい。

## 中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

### ○中長期的な改善計画

今年度は、ご利用者様の年齢層があがったことに伴い、名称を「スマートキッズジュニア王子公園」に改めて、中高生への療育に特化した事業所に変更している。こちらに伴い、

- ・卒業後の進路について、保護者様からの相談に対応ができるように就労継続支援B型作業所等との連携強化を図っていく。
- ・中高生がもつ困りごとに職員一人ひとりが対応できるよう、スキルアップを目指す。
- ・中高生としての「安心」「楽しい」とは何かを理解し、保護者の方に安心して預けていただけるような教室作りに努める。

### ○1年間で取り組む具体策

- ・社会に出た時に必要なスキルが身につけられるよう、就労訓練などのあらゆる社会生活を想定した集団療育活動を実施していく。
- ・作業所の見学など、関係機関連携を積極的に行っていく。
- ・法人内の他教室と連携を行い、活動内容の検討を広い視野をもって取り組んでいく。
- ・ヒヤリハットや事例検討の機会を増やすことで職員個々のスキルアップを目指す。

# スマートキッズ